

① 公務員という仕事

高校生保護者

公務員と聞いて、どのようなことをしていると思うでしょうか。昔なら黒い腕カバーをして、一生懸命書類を作成している姿を思い浮かべる人がいたと思いますが、さすがに手書きで書類を作成している人は、今はいません。パソコンは職場での必須アイテムであることは、一般の会社と変わらないと思います。

また、公務員にも国家公務員と地方公務員があることは、皆さんもご存知だと思いますが、どんな違いがあるか知っていますでしょうか。それだけでなく、都道府県の地方公務員と市町村の公務員でも、仕事の内容が違うことをご存知でしょうか。

国家公務員は文字どおり国家に属しており、国全体の運営にかかわっています。立法や裁判、外交、国家の安全保障や国全体の開発など、全ての国民生活の関わる仕事をしています。国の中央省庁と言われる1府11省2庁があり、内閣府、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、外務省、法務省、防衛省などの専門分野に分かれています。

国家公務員になるには、競争試験（採用試験）を受けて合格し、それぞれの省庁へ配属されていきます。国税専門や空港の管制官など専門職の試験もあり、その分野に特化した人を採用することもあります。

地方公務員は、都道府県や市町村、政令指定都市の採用試験を受け、その地方自治体で働きます。つまり、地域密着型ということになり、その地方でしか有効でない条例や規則等の立法業務や地方自治体の運営に関して働きます。その地方でしか有効ではないとはいえ、国会で策定される法律に基づいて条例等は策定されるので、国がダメと規定していることを地方自治体が行うことができるようにすることはできません。最近では「特区」という言葉が出てきますが、これは、本来ならば国がしなければならぬことの一部を、その地域に特別に許可を得てできるようにするものです。

地方公務員の場合は、先にも書きましたがその地方に密着した行政を行います。例えば、喫煙についてですが、大阪市などでは道路上の喫煙について禁止されていますが、他の自治体すべてで禁止されているわけではありません。また、お医者さんの診療を受けるときも、中学生まで無料になる場合や、小学校で終わってしまう自治体もあります。これは自治体の「裁量権」の問題となります。出来るかどうか自治体で判断しなさいということです。予算規模も、住んでる住民の数も違えば、できることも変わってきますよね。

また、公務員は全体の奉仕者であることから、特定の人にしか利益を与えることができないこととしてはいけませんし、民間では利益を生み出すことができなくて仕事として成り立たないけれども、日常の住民生活に必要な事業も行わなければなりません。例えば、道路上で車などに引かれた野生動物の死骸の撤去や、東日本大震災の時などは、死体の確認作業や

引き渡し、移送など、困難な仕事も時にはあります。

また、住民にとっては困難な事例の解決方法を求めてやってくる人が多いので、公務員にとって一番大切なことは、住民に寄り添って話を聞いて、解決方法を探すことだと思います。地方公務員も都道府県職員と市町村職員があり、それぞれに採用試験があります。当然市町村の職員の方が市民と接することが多く、福祉や保健、住民票などの発行と身近な存在と言えるでしょう。

国にいろんな省庁があるように、地方自治体にもいろんな専門部署があります。要するに国の省庁の地方自治体版です。そのため、福祉に関する部署、健康に関する部署、工事や開発の許可を出す部署、教育委員会、環境問題の部署、上下水道局、商業、工業、農業などの部署などがあります。また、それぞれの部署に多くの一般事務職と一緒に働く専門職もいます。

例えば、教師も公立学校で働けば教育委員会付の専門職ですし、市の公共施設や建築確認の申請を審査する建築士、土木技術職もいますし、子どもの成長過程や、住民の健康相談などを実施する保健師、公立保育所の保育士、子どもの精神的な発達を判断する心理判定員、障害や貧困問題など社会生活に支障のある人の相談を行う社会福祉士、水質検査などを行う科学職、警察官や消防士も地方自治体に所属します。

警察官の場合は、地方自治体採用と、皇宮警察などの国家公務員もあります。時々、刑事ドラマなどで隣の県に異動などというシチュエーションが出てきますが、国家公務員の警察官でなければ、都道府県をまたいでの人事異動はあり得ません。

以上のように、公務員といってもいろんな職種があり、専門性もあります。自分に何ができるのか、得意なことを生かすことによって、公務員になることができるということです。一般事務職でも大抵の場合、5年から10年程度に1度の人事異動があり、いろいろな仕事を担うことになります。

公務員の仕事は、住民の生活を考え、できることをしていく、公務員になるということは、社会貢献をすることでもあります。さあ、あなたはどんなことができるようになって、公務員になりますか？



② 人と人をつなぐ仕事『看護師』

豊島 知佐子

皆さんはじめまして、こんにちは。

私は看護師として働いています。これから看護師の仕事についてお話させて頂く事で、皆さんのこれからの将来に少しでもお役に立てたらと思います。

看護師の資格取得方法

看護師になるには、国家資格の「看護師免許」が必要です。看護師免許には正看護師免許と准看護師免許がありますが、ここでは正看護師免許についてお話させていただきます。

看護師免許を取得するには、高校卒業後に文部科学大臣指定の学校、もしくは厚生労働大臣指定の看護師養成のための学校を卒業し、国家試験に合格することで取得できます。4年制大学では、看護師国家試験受験資格だけではなく、保健師や助産師の国家試験受験資格も得ることができます。3年制の短期大学や専門学校は、看護師国家試験受験資格を得ることができます。学校によって様々なカリキュラムの違いがありますので、自分にはどれがいいのかしっかり選んでいただけたらと思います。看護師養成のための学校を卒業後、国家試験を受け合格すれば、看護師免許が取得できます。

看護師の就職先

就職先は、大学病院、総合病院、クリニック、介護施設、訪問看護ステーション、看護学校等の教育研究機関、社会福祉施設、保育園や幼稚園、保健センターなどの市町村の事業所など様々です。

私が看護師の仕事と出会ったきっかけと職場

私が看護師を目指そうと思ったきっかけは祖父の大病と繰り返される入退院でした。

闘病中も祖父とは頻りに連絡をして、行き来していたので

すが、引っ越しにより祖父は遠方に行く事となりました。最後に面会に行った時には、祖父はすでに意識がない状態でした。そこで担当の看護師から入院中の祖父の話をたくさん聞きました。そこには私の知らない祖父の姿がありました。その話を聞いている時間は、私にとって祖父に会いに行けなかった時間を取り戻すような大切な時間と感覚で、とても救われるような思いだった事を今でも覚えています。その時の事が、看護師をいう仕事に対するの憧れを抱き、この仕事を目指したいと思ったきっかけだったと思います。

その後、看護師免許を取得し、大学病院勤務を経て結婚。途中出産や育児で看護師の仕事から離れていた期間もありますが、内科クリニック勤務、小児科クリニック勤務を経験した後、現在は認定こども園看護師として働いています。

看護師という仕事をしていてよかったと思える時は、患者様が笑顔で退院される時です。

もちろん元気になって退院される方ばかりではありませんし、辛いこともあります。ですが、患者様が笑顔で過ごせる日が1日でも多く、そして長く続くためのお手伝いができること、時には患者様とご家族様を繋ぐ架け橋のような存在である事が看護師の存在意義だと私は思っています。

看護師という職業は、職場の選択肢も多く、女性にとって結婚出産などのライフスタイルの変化にも対応できる仕事だと思います。

また診療科の特性として、力仕事が必要な場合もあり、患者様の多様なニーズで男性の存在も重要視されている職業です。

未来ある皆さんには沢山の選択肢があると思います。ぜひこの先の目標の参考にいただければと思います。ありがとうございました。

